

〔投稿規定〕

1. 投稿原稿の種類

原著論文，資料解説，名古屋大学博物館の活動報告。

2. 投稿原稿の枚数制限

原著論文及び資料解説は，図表や図版を含め，刷り上がり 20 ページ以内，名古屋大学博物館の活動報告は 26 ページ以内を原則とする。なお，刷り上がり 1 ページあたり，和文は約 1,800 字，欧文は約 4,300 字を目安とする。

制限枚数を明らかに超過しそうな場合は，博物館 HP からダウンロードできる **Supplementary Material**（1 論文あたり，上限 2 MB まで）を作成してもよい。ただし，**Supplementary Material** の作成の責任は著者が負うものとする。刷り上がり時に制限枚数を超過した場合は，編集委員の判断で図表の縮小を行う，もしくは，著者に対して一部の図や文章の **Supplementary Material** への移行を求める。

3. 投稿時の提出物

投稿に際しては，テキスト，図，表，図版等のデータを下記の電子メールアドレス宛てに添付して送付する。

〔送付先〕『名古屋大学博物館報告』編集事務局 bulnum(at)num.nagoya-u.ac.jp （ただし，「(at)」は「@」に変換すること）

なお，電子メールでの投稿ができない場合は，データをコピーした CD-R もしくは DVD-R での提出も認める。その場合のデータの送付先は下記に記す。提出された媒体は原則として返却しない。

〔送付先〕 〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町
名古屋大学博物館
『名古屋大学博物館報告』編集事務局

4. 投稿データの形式

投稿データは投稿カード，テキスト，表，図，図版をそれぞれ別のファイルで作成すること。文章の割り付けや図表の配置は印刷所で行うため，テキストと図表ファイルは完全に分け，Word ファイルには図表を埋め込まないこと。各ファイルは，著者の責任の下，完成させたものを投稿すること。

- ・投稿カード—Word ファイル (.doc 及び.docx) もしくはメールでのテキスト情報のみ受け付ける。
原稿の種類別（原著論文，資料解説，博物館活動報告），表題，著者名，所属，住所，要旨（以上，和文，英文とも），連絡先所属（住所，電話番号，Email アドレス），査読者の候補 1 名（氏名，連絡先）。
- ・テキスト—Word ファイル (.doc 及び.docx) のみ受け付ける。原著論文及び資料報告は，表題，著者名，所属，住所，要旨（以上，和文，英文とも），本文，引用文献，図表のキャプションを付ける。ただし，博物館活動報告は要旨を付けなくても良い。査読工程の簡便性のため，原稿は Word 上で行数をレイアウト表示することを推奨する。
- ・表—Word ファイル (.doc 及び.docx) もしくは Excel ファイル (.xls 及び.xlsx) のみ受け付ける。
フォントサイズ 9 pt 以上で，A4 ファイルの横書き（余白を四隅に 3 cm 以上とる）に収まるサイズで作成すること。

・図・図版—300 dpi以上の解像度の指定された画像ファイル形式(.bmp, .eps, .jpg, .pdf, .tiff)でのみ受け付ける。テキストが埋め込まれない形式のファイル(例えば, .ppt, .pptx, .xls, .xlsx等)は開くOSによってフォントや行間がずれる可能性があるため, これらを画像として投稿することは認めない。原則として, 印刷時の図・図版のサイズの指定は認めない。1通のメールに添付するファイルが5 MBを超える場合は, 複数のメールに分けての送信, オンラインストレージの利用, USBメモリでの投稿を適宜検討すること。図は著者がデジタル化し, 投稿時に図として完成された状態にしておく。紙媒体での提出は認めない。なお, 高精細な図の掲載を希望する場合は, 原稿が受理された後に, 相談に応じる。カラーでの図の投稿も認めるが, 冊子体では原則としてモノクロ印刷となるため, カラー図版をモノクロ印刷しても綺麗に印刷されることを投稿前に確認しておくこと。冊子体で図をカラー印刷することを希望する場合は, 著者にカラー印刷分の印刷実費を請求する(後述)。相談に応じて, オンライン版をカラー, 印刷版をモノクロで印刷するように指定することにも対応する。標本資料の写真やデータ, 他の著作物に掲載された図などを本誌に掲載する場合は, 著者の責任の下, それぞれの所有者, 所有機関, 出版社に問い合わせ, 許諾を得ること。

5. 本文

投稿原稿はWordを用いてA4版用紙で作成し, 和文はMS明朝, 英数字は全てTimes New Roman, 特殊記号はSymbolとする。四隅に幅3 cmの余白をとる。本文はテキストのみで構成し, 通し行番号を付けること。本文のファイルに図表を含めてはならない。小見出しは中央寄せでブロック体とする。和文の句読点は, 「。」(全角ピリオド), 「,」(全角コンマ)を用いる。欧文の句読点は“.”(半角ピリオド), “,”(半角コンマ)を用いる。篆書体などの特殊なフォントには対応できない。

本文の末尾に, 全ての表, 図, 図版のキャプションを挿入すること。表, 図, 図版にはそれぞれ通し番号をつけ, 全ての図表が本文中に引用されていることを確認すること。

6. 引用文献

本文中で文献を引用する場合の例を以下に示す: 「(Baumgartner, 1984; 鈴木ほか, 1985; Yoshida *et al.*, 2005)», 「Yoshida *et al.* (2005)は...」, 「鈴木ほか(1985)は...」。本文中で引用した文献は, 全て「引用文献」欄に示すこと。また, 「引用文献」で引用したものが全て本文ないし図表のキャプションで引用されていることを確認すること。

原則として著者名のアルファベット順に, 著者名, (年), 表題, 誌名/書籍名, 出版社名, 巻(号), ページを記す。誌名/書籍名は省略せずに記し, イタリックとする。巻数はボールドとする。先頭ページと最終ページの範囲指定はエヌダッシュを用いる。

<例>

Baumgartner, P. O. (1984) A Middle Jurassic–Early Cretaceous low-latitude radiolarian zonation based on unitary associations and age of Tethyan radiolarites. *Ecologiae Geologicae Helvetiae*, **77**, 729–837.

Holmes, D. (1978) *Holmes Principles of Physical Geology*, 3rd ed. Nelson, 730p.

Nishida, S. and Mohamed, M. (2000) Preliminary study of the cuticular features in eleven angiosperm species

from Klias and Binsulok, Sabah. Mohamed, M., Yusoff, M., and Unchi, S. (eds.), *Klias-Binsulok Scientific Expedition, Universiti Malaysia Sabah, Kota Kinabalu*, 35–41. Universiti Malaysia Sabah, Kota Kinabalu.

鈴木和博・佐脇貴幸・堀内達郎 (1985) X線マイクロアナライザによる全岩分析のためのガラス新作成法. *岩鉱: 岩石鉱物鉱床学会誌*, **80**, 316–319.

Yoshida, H., Takeuchi, M., and Metcalfe, R. (2005) Long-term stability of flow-path structure in crystalline rocks distributed in an orogenic belt, Japan. *Engineering Geology*, **78**, 275–284.

7. 図, 表, 図版の引用の仕方

表は本文とは別のファイルで作成し, 全ての表に通し番号を付ける (和文の場合は「表 1, 表 2, ...」, 英文の場合は“Table 1, Table 2, ...”とする). 図は本文とは別のファイルで作成し, 全ての図に通し番号を付け (和文の場合は「図 1, 図 2, ...」, 欧文の場合は“Fig. 1, Fig. 2, ...”とする), 図表のファイル名に図表の通し番号を明記すること. 図版 (写真) は必要最小限の枚数とする. 図は出来るだけ原寸大のものを準備すること. ただし, 印刷時のサイズは最終的に編集委員会が決定する.

カラー図版は, その旨を投稿時に, 投稿カードの注意書きにて指定する (カラー図版の指定がない図については, 原則的にモノクロ印刷する).

和文中で図や表を引用する場合は, 以下の引用例を参考にする— (図 1), (表 1), (図 1, 2), (図 1–3), (図 1; 表 1, 2). 欧文中で図や表を引用する場合は, 以下の引用例を参考にする—(Fig. 1), (Table 1), (Figs. 1, 2), (Figs. 1–3), (Fig. 1; Tables 1, 2). 本文中に, 全ての図表が引用されていることを確認すること.

8. 著者負担費用について

冊子体上で図をカラー印刷することを希望する場合は, 初版のカラー印刷費用分の実費を請求する.

(2017年2月21日改訂)